

2021
令和3年
夏 vol.11号

A-TiC

広報誌エーティック・プレス

PRESS

There is always light behind the clouds.

株式会社 エーティック

SINCE 1973

若手とベテランがともに共鳴し、成長する会社に

令和3年度がスタートし、あっという間に3カ月が過ぎ夏の盛りを迎えています。コロナ禍が終息の気配を見せない中、さまざまな分野・産業での影響が広がっています。皆様もくれぐれもご自愛くださいますようお願い申し上げます。

コロナ禍により、リモートやテレワークなどの動きが加速しています。感染拡大防止に必要なこととすし、弊社でも積極的に取組をすすめています。

しかし、建設コンサルタント業の基本は、人とのコミュニケーションにある、との思いは変わりません。発注者の方の思いをくみ取り、インフラ整備をより効率的に事業展開ができるよう、業務成果をまとめるためには、発注者の方とともに社内のコミュニケーションが非常に重要です。

人との接触は極力避けることが感染拡大防止のカギとなりますが、そうした中であっても、コミュニケーションを持続する方法を社員とともに日々検討・実践しているところです。

ことし4月、弊社にも新入社員が7名入社しました。人材確保が厳しさを増す中、貴重な戦力として大切に、かつ発注者の方のご期待に応えることができるよう厳しく育成していきたいと考えています。

新入社員は皆、社会に出たばかりで知識も技術も足りません。彼らをしっかりと育てていくことは、会社の重要な役割です。一方で、若者を育てるということは、彼らを教える先輩や上司の「成長」も促します。会社の礎(いしずえ)は「技術」とそれを支える「人材」です。弊社が今、最も重視しているのは、定着した人材の成長です。社内での研修を定期的に行い、弊社の「企業文化」の共有を図ることで、成長の一助になればと思っています。

コロナ禍が終息し、北海道の短い夏を満喫できる日を切に願いつつ、皆様のご健勝を心より祈念し、今後とも変わらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 舟田 幸太郎



未来を託して 新入社員7人をご紹介します

当社には令和3年度、7人の若者が入社しました。社会人となってから3カ月あまり経ちますが、ようやく社内と仕事に慣れ始めたところです。当社の未来を担う個性あふれた若者達をご紹介します。



憧れの北海道の地で躍動したい

義元 陽 Hinata Yoshimoto

(設計部構造課)



出身は埼玉県越谷市です。建築系専門学校を卒業し、本州の企業に内定しましたが、以前から思っていた「北海道で働きたい!」との思いが強まり、エーティックに入社しました。今の部署は、疑問に思ったことを率直に聞ける風通しの良さがあります。まずは自分の立ち位置をしっかりと認識して、一日も早く会社の役に立つような仕事がしたいですね。趣味は会社に入ってから始めたフットサル。走り回ってリフレッシュしています。

若手剣士がエーティックの未来を開く

長谷 優之介 Yunosuke Hase

(設計部道路・河川課)



岩見沢東高から北見工大に進み、大学院ではガスハイドレートの研究をしました。土木系のコンサルを希望し、縁あってエーティックに入社しました。現場の経験をしっかりと積みながら4年後は技術士の資格取得にも挑戦したいですね。一日も早く「この仕事は長谷に任せよう」と言ってもらえるようになりたいです。多くの人に会うことのできるこの仕事は本当に楽しいです。新たな出会いと経験を積むことで成長できれば、と思っています。



教授の推薦受け東北から憧れの大地へ

佐藤 宥紳 Yushin Sato

(調査部防災地質課)

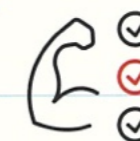


入社のきっかけは秋田大学の教授からの推薦でした。エーティックにも先輩がいて、北海道への憧れもあって入社を決めました。防災地質課では、トンネルなどの排水の水質調査を行っています。当面の目標は技術士補の資格取得。難しいとは思いますが、できるだけ早く技術士補の資格を取り、一人前の技術者になりたいと思います。出身は山形県の中央に位置する大蔵村という小さな村。とても美味しい日本酒が名物です。

「活気のある会社」に魅力を感じて

大島 寛豊 Hiroto Oshima

(調査部防災地質課)



北見工大に在学中に参加した就職説明会が印象的でした。若手の方が多く「活気のある会社だな」と感じ、インターンシップでも、社長の熱意が強く感じられ、入社を決めました。これまでにトンネル掘削土の水質調査などを行いました。大学でも水処理を専門に勉強したので、ある程度の基礎知識はあると思っていましたが、現場に出ると、分析の種類や深さが段違いです。プライベートはドライブで気分転換を図っています。



山ガールの経験が仕事でも活きる

吉村 珠美 Tamami Yoshimura

(設計部道路・河川課)



子どものころから自然と動物が大好きで、東京の高校から酪農学園大学に進学しました。牛たちと楽しい4年間を過ごし、すっかり「道産子」になりました。今はまだ、分からないことばかりですが、まずは技術士補の資格取得に向けて、全力を挙げていきたいと思っています。趣味は山歩きと写真。機会があればカメラを持って現場に行き、皆さんが熱心に仕事している横顔や雄大な風景などを撮影したいですね。

先輩の「すごさ」が分かるように経験積みたい

南 勇輝 Yuki Minami

(設計部構造課)



大学時代に建設コンサル会社出身の方の講義を聞いて「面白い仕事だな」と思い、この業界に関心を持ちました。会社訪問の際、社長自らが説明していただき、熱意を感じたのが入社への動機です。先輩を見て「すごい仕事をしているんだな」とは感じますが、何がすごいのかまでは分かりません。でも、新人が分からないのは当たり前、と前向きに考え、経験を積み重ねることで、やりがいや楽しさを感じていきたいと思っています。



社会人経験を活かして会社に貢献を

菊地 隆太 Ryuta Kikuchi

(調査部環境課)



ゼネコンの建築施工管理部門に在職していましたが、縁あってエーティックに入社しました。入社への動機は、広くまちづくりに関わる仕事がしたかったからです。幸い、以前の職場でも家屋調査などを行っていて、今の仕事でもそうした経験が活きる場合があります。ほかの新入社員の方に比べ、少し年上ですが、その分、経験を活かして会社に貢献したいですね。プライベートは愛車のバイク・SR400で自然を満喫しています。

07

技術者列伝

保原元二

～原野を切り開いた技術者～



札幌開発建設部所蔵

Motoji Hobara

かつて夕張川が千歳川の支川だった時代、川の流れを変える難工事を行い、豊かな大地を生み出した技術者がいました。栗山の丘から遠く広がる原野を眺めた彼は、暴れ川だった夕張川を石狩川へと直接つなげる構想を思いつきます。それは後に始まる多くの困難の序章に過ぎませんでした。様々な難工事を乗り越え大事業を成し遂げたのちには、広大な耕地と永遠に語り継がれる人々の感謝の念がありました。その技術者の名は保原元二といいます。

○保原元二と夕張川

保原元二は1883(明治16)年仙台に生まれ、東京帝国大学土木工学科に進学しました。ここで当時道庁技師を兼務していた廣井勇と出会います。また大学の同期には後に台湾の烏山頭(うさんとう)ダムを建設した八田與一(はったよいち)もいました。恩師の廣井から北海道開発の仕事勧められ、1910(明治43)年に大学を卒業すると同時に北海道庁へ入庁します。

保原の最初の仕事は夕張川の調査でした。夕張川は元々千歳川に合流して石狩川に流れていましたが、急勾配で川幅が狭く、「男川」と呼ばれ、毎年のように氾濫する暴れ川でした。一方、千歳川は上流の支笏湖が流量を緩和する緩やかな流れで「女川」と呼ばれました。このため合流点付近は流下能力が不足し、石狩川背水の影響や夕張川の増水で毎年のように氾濫し、周囲には湿地が広がっていました。

1909(明治42)年、岡崎文吉(当時の石狩川治水事務所長)が作成した「石狩川治水計画調査報告」に基づき治水事業が開始されると、夕張川の測量調査を担当したのが部下の保原でした。当時一帯はヨシ原が広がる泥炭地であり調査は困難を極めました。保原は調査中にヨシ原で自分が落としたハンカチを見つけ、同じ場所を彷徨っていると悟り、命の危険を感じた後に語っています。3ヶ月に及ぶ過酷な測量調査が終わって一帯を眺めていた際、夕張川を直接石狩川に流す新水路を引いて千歳川から切り離す計画に辿りつきます。



夕張新水路と旧夕張川

○難題連続の夕張川新水路事業

夕張川新水路事業は当初から難題の連続でした。まず、財政難で中々計画を実施することができず、要望を出し続けてようやく工事の目途が立ったのは構想から10年後の1919(大正8)年でした。

工事着手の後にも困難は続きます。最大の困難は夕張川流域に広がる泥炭地でした。軟弱な地盤への盛土は現代でも非常に困難が伴いますが、当時の技術では想像を絶します。堤防の盛土がすぐに沈んでしまい、築堤高の10倍もの土を盛った所もあったといいます。当初は機械が導入されず、土砂運搬は人力と馬引トロッコで行われました。その後蒸気機関車が導入されるも列車の重量により線路が傾くため、たびたび保線が必要でした。結局、軽量のガソリン機関車が導入されるまでの間、人力掘削を主として工事が進められたのです。

1928(昭和3)年に南幌と江別間の連絡水路が完成すると、1934(昭和9)年からは豊平川から浚渫船・昭和号が転用されてようやく工事が軌道に乗ります。

しかしこの工事は最後の最後まで困難が付きまといまいます。新水路は既に完成し通水の堰を残すのみとなっていた1936(昭和11)年、通水予定を目前にして夕張川は再び大きな洪水被害に直面します。この危機に対して住民は人力での通水を強行します。当時工事業責任者だった保原はこの行動を黙認して住民を咎めなかったそうです。この通水では危機を乗り切った住民が歓喜する様子が伝えられています。



人力による土砂運搬(札幌開発建設部所蔵)



新水路の通水(南幌町史)



現在の夕張川

○保原元二の功績とその後

保原は、1911(明治44)年から4年に渡って豊平川の調査を行い、「豊平川調査報告」としてまとめています。これは豊平川の堤防や護岸などの治水計画書であり、現在の豊平川の堤防の形の原形となっています。1924(大正13)年には札幌の豊平橋改築(1966(昭和41)年に改築)に堤防担当の技師として携りました。これは岡崎文吉が設計した道内初の鉄橋(落橋)の二代目(タイドアーチ橋)になります。

夕張川新水路が完成すると、「わが事終われり」と言って翌年に道庁を退職します。その後保原は土建業を営む傍ら、料亭経営や古美術商などにも携わり、晩年は趣味人として過ごしたそうです。大事業を完遂した技術者の晩年は、達成感で満ち足りたものだったでしょう。この事業により広大な耕地に生まれ変わった南幌町と長沼町では、保原の功績を讃えて銅像や顕彰碑が建てられました。銅像は現在三重緑地公園内に移設され、毎年7月1日に「治水感謝式」が行われ、今もその功績が語りつがれているのです。



保原元二像



井形 淳 設計部 技師長 工学博士/技術士(建設部門)

夕張川と千歳川に挟まれた潜在的に洪水が多い地理、一方で地質条件は道内でも屈指の難しい地域、現代の技術でも難しい工事に立ち向かい、そしてそれを成し遂げた技術者を紹介させていただきます。

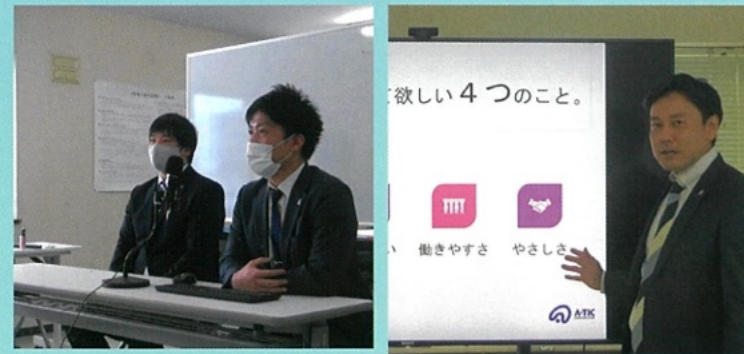
1967年札幌市生まれ。1993年室蘭工業大学大学院建設システム工学修了、1996年室蘭工業大学大学院建設工学修了。北海道開発局開発土木研究所を経て、建設コンサルタント会社に勤務。2015年(株)エーティック入社

高校生対象にフィールドスタディを実施ー熱心にメモを取る生徒達

石狩南高校の1年生を対象としたフィールドスタディを2020年9月29日、当社会議室で開催しました。高校生が参加しての説明会は初の試みで10人の生徒が参加しました。経営企画室の高橋室長は、建設コンサルタントとエーティックの仕事について「工事の前段階となる調査や設計を担う仕事で、道路や橋などを整備する際には欠かせない仕事です」と説明。「エーティックは、設計の前に必要な周辺環境調査なども行います。幅広い分野をカバーするために多様な人材がチームになって仕事を進めています」と、会社の特徴を解説し、生徒達は熱心にメモを取っていました。



北見工大、北大、苫小牧高専で合同企業説明会ー反省点もいくつか



2020年11月から21年3月にかけて、北見工業大学と北海道大学、苫小牧工業高等専門学校による合同企業説明会に参加しました。いずれもオンライン開催でしたが、オンデマンド型の学校もありました。対面とは異なり、学生の生の反応がなかなかつかめず、こちらの熱意もうまく伝えることができなかつたのでは、など反省点がいくつかありました。ただ、苫小牧高専では、参加した学生が22年の新卒者として入社することになりました。この学生は、21年度のインターンシップにも参加し、当社にぜひ入社したいと希望していました。

「教え合い、支え合うような会社」ー新卒者向け説明会で活発な意見交換

2022年度新卒者向けの企業説明会を3月8日と10日に実施しました。対面とオンラインによる同時開催を実施し、2日間で道内の大学生8人が参加しました。会社の方針について舟田社長は「社員の『やる気』と『成長』、そして『生活』を預かる会社として『安定』『やりがい』『働きやすさ』『やさしさ』を重視しています」とあいさつし、「物心ともに豊かな環境で教え合い、支え合うような会社であり続けたい」と、会社の方向性を説明しました。参加者からは「社員の成長を重視する会社だと感じた」「新しい技術にチャレンジしたい」など、活発な発言がありました。



開発局長表彰と開建部長表彰を受賞しました！

2021年度の北海道開発局優良工事等表彰企業が決定し、エーティックは開発局長表彰1件と、開発建設部長表彰を2件の業務で受賞しました！局長と部長表彰を同時に受賞するのは初めてのことで、社員全員が今回の受賞を励みとして、今後もさらなる技術の研鑽と、優秀な業務成果の達成に全力を挙げていきます！

【北海道開発局長表彰】

業務名：一般国道229号神恵内村キナウシトンネル補修設計外一連業務
発注者：小樽開発建設部
管理技術者：熊谷 幹也(くまがい・みきや、51歳)
業務概要：一般国道229号のキナウシトンネル、兜トンネル、茶津トンネルの補修設計業務およびキナウシトンネル、茂岩トンネルの変状調査



管理技術者から一言

局長表彰という大変栄誉ある賞を受賞し感激しています。発注者の方の目線にできる限り立ち、円滑な事業執行のお役に立てれば、という思いで業務を進めました。今後も一層の技術の研鑽に励んでいきます

【札幌開発建設部長表彰】

業務名：一般国道452号芦別市法面対策工修正設計外一連業務
管理技術者：神元 貴也(かのもと・たかや、42歳)
業務概要：一般国道452号盤の沢道路における補強土壁、施工済切土法面の変状対策工および予防対策工の詳細修正設計



管理技術者から一言

多くの業務の中から受賞できたことをとても嬉しく思います。効率的な施工に向け、法面対策工には新技術の提案を行うなど、創意工夫に努めました。受賞を契機に技術力を高めていきたいと思っています

【留萌開発建設部長表彰】

業務名：一般国道231号増毛町暑寒別橋補修設計外一連業務
管理技術者：三木 克則(みき・かつのり、38歳)
業務概要：一般国道231号の暑寒別橋、仁奈江橋、フレシマ覆道および232号茶俊内橋の現地調査および補修設計。



管理技術者から一言

今回の業務では、事業計画の変更により急遽、追加の対応が必要となるなど、想定外のこともありました。無事完了し、部長表彰を受賞したことは私自身にとっても自信と誇りになる仕事でした。ありがとうございます！

道内トンネル文献あれこれ

令和2年12月～令和3年6月において、専門雑誌等に発表された、北海道内のトンネルに関する論文・報文等のリストを紹介します。トンネル関係の方々へ最新情報を提供いたします。なお、詳細を知りたい方は弊社までお問い合わせ下さい。

👉 国道・道道他

- 岡本雅之：一般国道 230 号 札幌市 新白糸トンネル工事，北海道土木技術会トンネル研究委員会会報，No.68，pp8-11，2020.

👉 新幹線・鉄道

- 渡辺和之，定司肇，西村直樹，根来将司：小土かぶり区間におけるSENSの施工管理ー北海道新幹線 羊蹄トンネル比羅夫工区一，トンネルと地下，Vol.52，No.6，pp7-18，2021.
- 横道立樹：膨張性地山における計測システムと活用事例ー立岩トンネル(立岩)一，第86回(山岳)施工体験発表会，No.66，pp1-8，2020.
- 鈴木裕貴，吉村直人，小塩崇之：未固結小土被りトンネルにおける変状傾向と施工管理方法について，トンネル工学会報告集，第30巻，1-22，pp1-6，2020.
- 浅野彰夫，淡路動太：北海道新幹線、ニツ森トンネル(尾根内)工事，北海道土木技術会トンネル研究委員会会報，No.68，pp2-7，2020.



■「建設コンサルタントの基本は コミュニケーション」 — 全社研修会

2021年度全社研修会を4月26日に開催しました。昨年に続いて、WEB会議形式で実施しました。舟田幸太郎社長は、当社の経営理念を説明し「コロナ禍により、リモートなどの動きが加速している。しかし建設コンサルタント業の基本は、人とのコミュニケーションにあります。発注者の思いに寄り添い、効率的に事業展開ができるような業務成果とするため、発注者と社内でのコミュニケーションが重要」と強調しました。



コミュニケーションの重要性を強調する舟田社長

■「ゼロ災害の継続を」— 上期安全大会

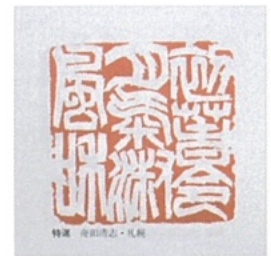


具体的な安全対策を学んだ

5月18日に2021年度上半期安全大会をWEB形式により開催しました。役職員と協力会社から合計約120人が参加。舟田幸太郎社長は「コロナ禍で不透明な中、ゼロ災害を達成することができた」と語り、「現場作業の安全管理を再度徹底し、ゼロ災害を継続して欲しい」と呼びかけました。引き続き滝川浩一常務執行役員が具体的な安全対策などを説明。大会の最後には、計測事業室の桂川優陽さんが安全宣言を行いました。

■舟田会長が特選に入選— 北海道書道展

第62回北海道書道展において、篆刻(てんこく)・刻字部門で、当社の舟田清志取締役会長が特別賞を受賞しました。1960年創設の北海道書道展は、招待会員や会員ら約870人が所属、一般公募部門にはおよそ1,300点が出品されている道内最大規模の書道公募展です。部門は漢字、大字書、篆刻・刻字などの6部門。舟田会長は103点の応募の中から、特選(5点)に選ばれました。



103点の応募作品から選ばれた

NEWS

■社屋をリニューアルします

今秋に社屋改修に着手します。1970年代に建てられた現社屋は、老朽化と狭隘化が進んでいます。改修工事により、職場環境の改善と防災機能の充実、コロナ対策などを実現します。工事中は近隣のビルでの仮住まいとなり、リニューアル完成は2022年秋を予定しています。現在、設計プランを詰めているところです。

NEWS

■新HP、7月にもお披露目

現在作業を進めているHPのリニューアルが7月にも完了し、お披露目となる予定です。バージョンアップしたHPでは、新入社員やベテランの紹介など、人にフォーカスした内容となります。お楽しみに。

株式会社 エーティック 会社概要

- 商号 株式会社エーティック
- 代表者 代表取締役社長 舟田 幸太郎
- 所在地 (本社) 札幌市西区二十四軒1条5丁目6番1号
- 創業 昭和48年1月31日
- 資本金 48,000千円
- 従業員 96名
- 事業所 札幌本社 東京支店 函館支店 道央営業所 旭川営業所
- 表彰 令和3年 北海道開発局 局長表彰 受賞
北海道開発局 札幌開発建設部 部長表彰 受賞
北海道開発局 留萌開発建設部 部長表彰 受賞
令和2年 北海道開発局 帯広開発建設部 部長表彰 受賞
令和元年 北海道開発局 札幌開発建設部 優良工事等表彰 受賞
北海道開発局 小樽開発建設部 優良工事等表彰 受賞
札幌市建設局土木部所管工事に係る設計等優秀履行業者表彰受賞
- 平成30年 北海道開発局 室蘭開発建設部 優良工事等表彰 受賞
- 平成29年 北海道開発局 網走開発建設部 優良工事等表彰 受賞
札幌市建設局土木部所管工事に係る設計等優秀履行業者表彰受賞
- 平成28年 北海道開発局 札幌開発建設部 優良工事等表彰 受賞
- 平成25年 北海道開発局 函館開発建設部 優良工事・業務表彰 受賞
空知総合振興局 札幌建設管理部 優秀現場代理人・管理技術者表彰 受賞

編集後記

コロナ禍の終息に向けて、副反応が気になりますが、ワクチン接種が全国的に始まりました。現在は、ワクチン供給の見通しが不透明になってしまいましたが、希望者が1日でも早くワクチン接種できる状況が整うことを願っています

組織図

